

長 薬 同 窓 会 報

Alumni Association

*School of Pharmaceutical Sciences*

*Nagasaki University*

第 50 号 (2010年)

# 目 次

同窓会長挨拶 .....	伊豫屋偉夫(昭41) .....	1
薬学部長挨拶 .....	畑山 範 .....	2
平成22年度長薬同窓会定期総会・講演会・懇親会 .....		3
平成23年度長薬同窓会総会開催のご案内 .....		4
追悼 大河内美代子さん .....		5
	高良真也(昭57), 森田宏樹(昭59), 山内秀樹(平2), 中田一成(平9), 大山 要・山口 隆(平12), 鈴木秀明(平14)	
支部だより .....		9
	関東支部, 近畿支部, 広島支部, 山陰支部, 福岡支部浦陵会, 大分支部, 佐賀支部若楠会, 熊本支部, 鹿児島支部, 長崎県北支部, 長崎県央支部, 長崎支部くびる会	
クラス会および近況だより .....		19
	峰 唯信(昭26), 服部俊明(昭28), 峯 武磨(昭30), 小林 浩(昭32), 熊本公子(昭33), 木下敏夫(昭35), 園田フミ(昭36), 永田了一(昭36), 荒木弘章(昭37), 岡 邦彦(昭38), 松村祐子(昭40), 平山文俊(昭41), 井上一顕(昭42), 富永義則(昭44), 松本逸郎(昭47), 西垣敏明(昭47), 松本逸郎(昭47), 木野省三(昭50), 鈴木潤子(昭55), 川邊智子(昭56), 中嶋幹郎(昭57), 高良真也(昭57), 伊藤 潔(昭59), 森川 隆(昭62), 白川奈奈子(平1), 井手指月(平2), 池田理恵(平13), 宮元敬天(平20), 黒川裕美(平22), 和田 怜(学部3年), 和田光弘(平4)	
クラブOB会だより .....		52
	野球部, 硬式庭球部, 軟式庭球部	
庶務報告 .....		55
	物故者氏名, 学内記事 .....	55
長薬同窓会役員名簿 .....		57
長薬同窓会支部一覧 .....		58
会計報告(平成21年度決算, 平成22年度予算, 監査報告) .....		59
新刊図書のご紹介 .....		62
同窓会事務局だより .....		表Ⅲ
編集後記 .....		表Ⅲ



## ご挨拶

会 長 **伊豫屋 偉夫** (昭41)

今年度の総会は、12年振りに蘇った佐賀支部「若楠会」の皆さんのご協力により、佐賀市で多くの会員の皆様の参加を得て開催することができました。厚くお礼申し上げます。

また、この総会の開催に併せ、佐賀でクラス会を開催していただきました各学年の皆様にも心からお礼申し上げます。

さて、薬学部6年制が始まり今年で5年目に入り、いよいよ今年5月から学生の薬局・病院での実務実習が始まりました。関係しておられる会員の皆様も多いかと思いますが、多くの立派な薬剤師が社会に出てきますようご尽力をお願いします。

ただ、今年3月の長崎大学薬学部の卒業式に同窓会長として参列させていただいたのですが、4年制の卒業生のみで40名と昨年までの80名の半分で、会場が半分空いて、少し寂しい感じがしました。あと1年はこの状態が続くのだなあとと思うとともに、同窓会の会員も2年間は半数に減るのだなあと実感させられました。

現在、長薬同窓会の会員は約4300名で、全国各地でいろいろな職業に従事し、国民の健康の増進と環境の保全等に日々活躍しておられます。同窓会は皆さんの参加があって成り立っています。先輩・後輩が一堂に会し、同じ大学を卒業したということで、心を開いて情報交換するこ

とができる総会に必ず顔を出すよう、是非周りの会員にも呼びかけていただきますようお願いいたします。特に、平成卒の会員の皆さんの参加をよろしく願います。

長薬同窓会のホームページも伊藤 潔幹事(昭59)の全面的なご協力により、同窓会に関する最新の情報を提供していますので「是非」長薬同窓会」でアクセスしてみてください。また、毎年12月末に会報の発行を行うことにしていますので、各支部の取り組みや各学年のクラス会の動向等もE-mailで事務局まで情報提供をお願いします。

なお、今年は3年に1度の名簿を発行しました。氏名、住所、勤務先等変更のあった方はその都度事務局までご連絡をお願いします。

次に、訃報ですか、30年近く同窓会事務局員として同窓生並びに学生のお世話をさせていただきました大河内さんが8月24日にお亡くなりになりました。私も葬儀に参列しお参りしてきましたが、多くの同窓生から当時の思い出を綴った甲電が沢山寄せられていました。ご冥福をお祈りいたします。

長薬同窓会を核にして、同窓生を取り巻く大きな環境の変化に的確に対応し、同窓生が各々の立場で大いに活躍し発展していかれますことを祈念してご挨拶といたします。



## 長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長 **はたけ やま すずみ**  
**畑 山 範**

長薬同窓会の皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

薬学教育6年制がスタートして、早くも4年が過ぎました。この教育制度改革にあたり、長崎大学薬学部は、薬剤師と創薬研究者の両者を育成することを基本方針として、創薬研究者の養成を主とする4年制課程と薬剤師養成を主とする6年制課程を併置しました。4年制課程では、この3月に最初の卒業生が出たばかりであり、そのほとんどは大学院に進学しております。一方、6年制課程では、事前実習、CBT、OSCE、そして教育の質の保証のための自己評価トライアルも何とか終え、この5月から病院と保険薬局での長期実務実習も始まっております。この新しい薬学の教育システムは、平成24年に修士課程の上に博士後期課程と6年制学部の上に博士課程が出来た時点で一応完成を迎えることとなります。

以下に、薬学部が現在取り組んでいることについて簡単に紹介させていただきます。まず、薬剤師教育に関しましては、平成19、20年度の2年間行いました概算要求事業の「離島・僻地医療に貢献できる薬剤師の養成教育プログラム」に引き続き「在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成」と題したプロジェクトが文部科学省の戦略的・大学連携支援プログラム（いわゆる連携GP）に昨年度採択され、2年目を迎えているところであります。本連携事業の中で、今後益々高まる在宅医療のニーズに対応すべく、在宅医療の現場で患者が必要としている様々なケアに対応できる臨床能力を身につけた薬剤師を養成するため、長崎県立大学と長崎国際大学と連携し、薬学と看護の基礎的な知識と技能の共通化を図るチーム医療教育を展開しております。

一方、4年制学科の創薬研究者養成教育に関しましては、長薬協会の解散を機に、その基本財産をもとに下村 脩先生のお名前を冠した「長崎大学薬学部下村 脩博士ノーベル化学賞顕彰

記念創薬研究教育センター」を設置することが決定しました。これによって、創薬研究において世界で活躍できる人材養成の環境作りを強化します。既に下村先生から特別顧問にご就任いただくことを了承いただいております。

最後に、この1年での主な異動について報告いたします。まず、昨年10月に衛生化学研究室に淵上剛志助教が新たに加わり、11月には、連携GPの有期雇用職員として水野恭伸准教授が着任しました。さらに、本年1月に、中村純三教授の後任として西田孝洋准教授が教授に昇任し、薬剤学研究室を主宰しております。2月には、長崎大学が推進している「地方総合大学における若手人材育成戦略」のテニユアトラック事業に関連して村松 涉助教が着任し、薬品合成化学研究室内の尾野村 治教授と協力して創薬化学研究を行っております。3月には、昭和48年から長きにわたり研究、教育において薬学部を牽引していただいた薬品生物工学研究室の芳本 忠教授が定年を迎えられ、ご退職しました。芳本先生には、学部長として薬学部の組織運営にも重責を担っていただきました。現在、摂南大学理工学部生命科学科長として研究、教育、組織運営に多忙な日々を過ごしておられます。また、3月に、薬化学研究室内の袁 徳其准教授が神戸学院大学に教授として転出し、4月には、麓 伸太郎助教が薬剤学研究室の准教授に昇任しました。5月には、連携GPの水野恭伸准教授が退職しましたが、6月から手嶋無限准教授が新たに連携GP有期雇用職員として加わりました。そして、7月と8月に、薬化学研究室と分子薬理学研究室にそれぞれ大庭 誠准教授と松永隼人助教が着任しました。このように、本薬学部では人事異動が活発に行われております。このことは教育と研究の活性化にとって非常に好ましいと思われれます。

以上、長崎大学薬学部の現況を簡単に述べさせて頂きましたが、同窓会の皆様には、薬学部のさらなる発展に向けて、御支援、御高配を賜りますようお願い申し上げます。